

ホコリタケの仲間は「腹菌綱（ふくきんこう）」という分類に位置付けられていました。子実体の内部に胞子を形成するグループという意味です。現在は、シイタケやマツタケと同じ「ハラタケ綱ハラタケ科」に分類されています。

若い子実体を縦に切ってみると、中は真っ白で弾力もあり、まるでハンペンのようです。実際に若い子実体は、表皮を取り去れば、食用になります。私は吸い物の具にしてみましたがありますが、香も食感も良く、優秀な食菌だと思いました。

しかし子実体は短時間で成熟し、内部に古綿状の組織にまみれた胞子塊が形成されます。そうなるともう食用にはなりません。食用になるのは、ほんの短い時間だけなのです。成熟した子実体も全く役に立たないわけでもないようです。実は止血に効果があるようで「チドメタケ」の異名もあり、漢方では「馬勃（ばぼつ）」と呼ばれているそうです。残念ながら私は止血に試したことはありません。

(2023年9月下旬／北軽井沢)

